終戦前後の思い出

佐藤　稔
(昭和22年電気科卒)

第二次大戦の激しいさなかの1944年4月の入学式であった。入学当初に実習工場の焦げ臭い処で、雑然とした工具部品類が散乱していたところの跡始末の雑作業であった。

仙北地方の農家(出征兵士の家)の人手不足のために泊まり込みで田植えのお手伝いに行った。一人ずつ農家に派遣された。隣(百米程離れている)の家に行った友から便所(大)が恐いという相談があったので私は野糞を勧めた。便所は母屋から少し離れて独立した小屋となっている。中は少し薄暗く大きな深いタテ穴のみであり、真中に太い縄が一本垂れ下がっている。隅には木の葉の入った箱がある。うしろには肥桶、ひしゃくに、天秤棒や鍬等の農機具が雑然と置いてある。彼はその後、野糞をする場所を探すのに苦労したと言っていた。

仙北の神代発電所にクラス全員で一泊の見学に行った。狭い部屋での雑魚寝であったのでT君らはいたずらして喜んでいた。そのうちに私は寝てしまった。この見学は同級生の絆を深めるのに良かったと思う。

入学当初から週一回程度、軍曹による軍事教練があった。整列点呼のうえ、グランドを三周位駆け足走行で始まった。藁人形を目的とした銃剣術の練習をした。また、ほふく前進の訓練といって地面に腹ばいになって早く動くのである。とくに第三ほふくはきつかった。

終戦間近になった頃、軍曹に仕返ししようという物騒な相談もあった。

戦争が激しくなるにつれて、松根油採りや防空壕づくりなどを行った。

軍需工場への動員としては、私は市内の林金属へ行き、砲弾の薬きょうの部品の一部の整形を旋盤で毎日行っていた。なにかむなしい孤独な気持におそわれた。それから実習工場にゆき三菱の航空機の通信機器の部品一部分となる有線コイルの作業(巻線)をした。その製品は大部分が不合格品となった。(品質管理の結果)

土崎に焼夷爆弾が投下されたのには驚いた。

1945年8月15日の昼過ぎグランドに集合せよとの指示があった。天皇陛下の玉音放送を聞かされた。よく聞き取れない。最初は何のことか判らなかった。日本は負けたんだと自分に言い聞かせた。しばしの間虚脱状態になり、何かしら不安感が交錯していた。

戦争が終わり我が家の金銭事情は深刻であった。学校にいくものの明日の生活をどうしようかと毎日不安であった。弟を嫂の実家(湯沢市)に行って貰い、農業の手伝いをしてお米を戴いていた。農家の人がリヤカーで我が家を尋ねて来て物々交換をし、米を確保した。当初は亡き両親の着物や新調の背広等であった。それでは足らずに、生きていくために桐タンス、桜皮張りの茶タンスに、檜の風呂桶、客用の蒲団二組、座布団三組等が逐次米に化けていった。家の中が何か侘しくなり、気が重かった。最後は両親の位牌のある半間幅の立派な仏壇まで田舎の人が欲しがったがこれだけは勘弁して貰った。終戦後生きるためには大方の人は深刻であった。我が家は何ら収入がなかった。そこで家の広さを考えて二階、玄関の横の一間に、裏の離れ家を貸すことにして家賃収入を得ることにした。すぐに入る人が決まってホッとした。そして嫂、甥、弟妹らの生活を確保した。

かような状況であったので、学校の授業はうわの空で過ごした。授業中もいつも家のことを考えていたので、成績は最悪であったと思う。兎に角卒業できたものの就職はなかった。

私はかねて或る土建会社(日雇人夫)に依頼していたので、卒業の翌日から弁当持参で旭川の河川工事の現場に向かった。

スコップを持って従事した素人の悲しさで、先輩のおじさん達に作業のいろはを習った。その土堀り作業の整形の検査には、何度も不合格となり、やり直しを命ぜられ結局先輩の手助けを受けてやっと合格したときは嬉しくホッとした。

その後三角石を置場から一日百五十個以上を運ぶのがノルマであった。石工さんに石運びのときの要領などを教わり非常に助かった。この石運びは一ヶ月半余続いた。毎日クタクタになって働いたが、身体を使っての作業なのか余り苦にならなかった。お昼どき先輩の職人さんと一緒に食べるときの談笑は非常に楽しかった。

先輩の方々の自信に満ちた仕事のキャリアには感心させられた。毎日の暑さと闘いながら護岸工事の作業に専念した。天候が悪く作業ができないときには事務の仕事や跡片付けなどの整理整頓や清掃作業などを行った。

この仕事を経験して、いかに段取りが大事であるかを知った。また一寸したことに対しても相手に思いやりの心を尽くすことを勉強させて貰った。それで怪我することもなく半年余り続けた護岸工事が出来上がったときには、非常に嬉しかった。

秋の風　生きて今ある　終戦後
老いたれど　不満はない　秋日和
卒寿に向ふ　秋日和　心地よし

(2017.10.17記)

戦中の秋工校舎全景／昭和18年卒者の卒業アルバムより(HP掲載中)

労働安全コンサルタント
登録No：土 第1213号
小野　鐵雄
(昭和38年 土木科卒)
〒279-0011 千葉県浦安市美浜5-6-1003
TEL&FAX. 047-352-8925
携帯. 090-6566-7936
E-mail : safety-con_tetsuo_o@pa2.so-net.ne.jp